

序論

執筆者はもっと秋田弁を分かりりにして研究したいである。

1. 秋田弁の中にどんな違い事がありまして、標準語に釣り合い事を研究したいである。
2. 秋田弁及び標準語に何の要素が違うか。

話す集団の中には方言がある。方言は特定の社会にある変化言葉である。日本にも方言がある。ヂトマー（1976：128）によると、方言は七つ社会言語学寸法に研究されます：

1. 話す人の社会身元。
2. 相手の社会身元。
3. 話す時の場所。
4. 社会方言からシンクロニックとジアクロニックの分析。
5. 話す人は述べる形に異なる評価事。
6. 言語学種類変化の階層。
7. 社会言語学の便利な応用。

執筆者は社会言語学で『女帝薫子』ドラマの中に秋田弁を研究する。発見された秋田弁は七つ社会言語学寸法に研究されまして、標準語にも釣り合う。

本論

執筆者は『女帝薫子』ドラマの中に秋田弁が発見されまして、標準語に釣り合う。この会話例を見てください：

ジュンペイ：サヤ、東京にイグノいよいよだな。

サヤ：ええ。。ンダ。

(女帝薫子、エピソード 1, 00:02:00)

この会話例に「イグノ」の秋田弁言葉がある。標準語で「イグノ」は「行くの」と釣り合いである。そして、「ンダ」の秋田弁言葉は標準語で「はい」である。七つ社会言語学寸法で研究すれば話す人及び相手人の身元がある。サヤさん及びジュンペイさんは友人で、同じ年齢で、サヤさん及びジュンペイさんも秋田の本成員ですから生活会話に秋田弁を使う。

そして、話す時の場所は秋田県に発生されましたからサヤさん及びジュンペイさんは秋田弁を使った。方言は社会集団が場所に基づく口頭に使う。それから、サヤさん及びジュンペイさんは同じ年齢ですから使う言葉変化は普通階層である。

会話の中に秋田弁及び標準語の違いが発見された。七つ社会言語学寸法に研究効果は話す人の社会身元、相手の社会身元、話す時の場所、言語学種類変化の階層である。

結論

秋田弁及び標準語の釣り合いの研究効果の発見された事は：

1. 「k」の発音は「g」に変わる。
2. 「はい」の言葉は「ンダ」に変わる。
3. 「t」の発音は「d」に変わる。
4. 「～られない」の接尾辞は「～ラレネイ」に変わる。
5. 「～かない」の接尾辞は「～ゲネイ」に変わる。
6. 「うまい」の言葉は「ンメ」に変わる。
7. 「でしょう」の言葉は「ダベ」に変わる。
8. 「へ」の助詞は「サ」に変わる。

そして、秋田弁及び標準語がちがう要素は地理所、社会の引っ越し事、
それで都市に他の方言の干渉事もある。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	ii
DAFTAR ISI.....	vi
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	5
1.3 Tujuan Penelitian.....	5
1.4 Metode dan Teknik Penelitian.....	5
1.5 Organisasi Penulisan.....	7
BAB II KAJIAN TEORI	
2.1 Sociolinguistik.....	8
2.2 Dialek.....	18
2.3 Dialek 東北 <i>Tohoku</i>	24
2.4 Rangkuman Teori.....	28
BAB III ANALISIS	
3.1 Ragam 秋田弁 dan dipadankan dengan bahasa Jepang standar.....	30
3.2 Faktor-faktor yang membedakan 秋田弁 dengan bahasa Jepang standar.....	60

BAB IV KESIMPULAN.....	61
DAFTAR PUSTAKA.....	63
SINOPSIS.....	viii
LAMPIRAN DATA.....	xvii
RIWAYAT HIDUP.....	xviii